

事務事業名		隣保館地域交流事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	5 市民みんなで作る夢のあるまちづくり					担当組織	担当部	市民生活部	担当課	隣保館
	政策	1 人権を尊重した市民参加によるまちづくり					担当係	隣保館	担当課長名	山口晃一	
	施策	2 個々の人権を尊重する地域社会の形成と男女共同参画社会の実現					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	1 人権意識の高揚					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	2040	一般	2	1	13	隣保館地域交流事業					
	事業区分						市単独事業・国県補助事業		国県補助事業		
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	S61年度～ 年度			根拠法令等	社会福祉法及び施行規則 佐野市隣保館地域交流事業実施要綱				
	事業区分						任意的事業・義務的事業		任意的事業		
	事業区分						実施方法		直営		
事業区分						事業分類		講座・教室・イベント等開催事業			
事業区分						リーディングプロジェクト		該当なし			
事業区分						市長マニフェスト		該当なし			

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)		平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)					
隣保館は、地域に密着したコミュニティセンターとして、地域交流会、各種講習会を実施し、住民相互の交流を図ることで同和問題をはじめとする様々な人権課題への理解を深めるとともに、教養文化等に関する知識や能力の向上を図る。		①パソコン講習会(3回) ワード 1回(6日間) 6月 参加者 12名 エクセル1回(6日間) 6月 参加者 5名 応用編1回(6日間) 9月 参加者 8名 ②絵手紙講習会(1回) 7月(5日間) 参加者 20名 ③料理講習会(2回) 健康料理講習会 2月26日・3月5日 参加者 7名 そば打ち講習会 12月13日 参加者 24名 ④ふれあいまつり(1回) 11月16日(土) 参加者 約380名					
活動指標		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)
パソコン講習会開催数		回	3	3	3	3	3
絵手紙講習会の開催数		回	1	1	1	1	1
料理講習会の開催数		回	2	2	2	2	2
②対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)		対象指標					
地域住民及び市民		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)
人口		人	123,182	122,582	121,522		
③意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)		成果指標					
地域住民の相互交流により、同和問題をはじめとする様々な人権課題への理解を深め、文化教養に関する知識等を促進し向上を図る。		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)
パソコン講習会の参加者数		人	36	25	60	60	60
絵手紙、料理講習会の参加者数		人	55	51	64	64	64
ふれあいまつり参加者数		人	350	380	380	380	380
④結果(どのような結果に結びつきますか?)		上位成果指標					
市民が人権を意識しながら生活する。		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)
人権講演会参加者で、「日頃、人権を意識しながら生活している」と回答した参加者の割合		%	90.4	93.6	92.0	93.0	93.0

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)			
	国庫支出金	千円								
	県支出金	千円	491	471	590	590	590			
	地方債	千円								
	その他	千円	94	90	136	136	136			
	一般財源	千円								
	事業費計(A)	千円	585	561	726	726	726			
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			報償費	116	報償費	116	報償費	152	報償費	152
			需用費	224	需用費	193	需用費	303	需用費	303
役務費			8	役務費	9	役務費	11	役務費	11	
委託料			237	委託料	243	委託料	260	委託料	260	
人件費	人	3	3	3	3	3				
のべ業務時間	時間	470	470	470	470	470				
人件費計(B)	千円	1,829	1,852	1,852	1,852	1,852				
トータルコスト(A)+(B)	千円	2,414	2,413	2,578	2,578	2,578				

事務事業名	隣保館地域交流事業	担当部	市民生活部	担当課	隣保館	担当係	隣保館
-------	-----------	-----	-------	-----	-----	-----	-----

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	国の地域改善対策特別措置法に基づく国庫補助により隣保館を建設。昭和61年開館以来、社会福祉法に基づく隣保事業を行っているが、地域交流事業は、隣保事業のうち特に重要な事業の一つである。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	国における同和対策事業は、昭和44年同和対策特別措置法に始まり平成14年まで特別対策事業が実施され、その後、一般対策事業として実施されている。隣保館で行う隣保事業は、社会福祉法に基づく隣保事業として開館以来実施している。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	身近な場所で行うため、気軽に参加でき楽しみにしている。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	社会福祉法の規定に基づく隣保事業の主要な事業であり、同和問題をはじめとする人権問題の速やかな解決に資するための事業である。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	同和問題をはじめ、様々な人権問題の速やかな解決は国及び行政の責務である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	地域交流を図ることで、同和問題をはじめとする人権問題の解決につながる。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない	理由・改善案	気軽に安心して参加できる事業を継続して実施している。団塊の世代が定年を迎えるので、この世代を対象とした講座を開催することも考えられるが、予算も伴うため十分の検討が必要である。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はあるが、統合・連携できない	理由・改善案	類似事務事業名 田沼福祉コミュニティセンター地域交流事業 各館の地域性、独自性を尊重し地域交流事業を推進している。
	* 類似事務事業があれば、名称を記入			
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	関係職員・ボランティアの協力を得ながら事業を実施してをり削減余地はない。
公平性 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案	実費分を負担いただいております、適正である。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	同和問題をはじめとする人権問題の解決が図られたと市民に理解されるまで事業を継続する。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																					
現状維持(従来通り実施)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。																						
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○	×																			
	低下		×	×																			